

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3112300号
(U3112300)

(45) 発行日 平成17年8月11日(2005.8.11)

(24) 登録日 平成17年6月29日(2005.6.29)

(51) Int. Cl.⁷

B 2 6 B 9/00
A 4 7 J 43/28

F I

B 2 6 B 9/00 A
A 4 7 J 43/28

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願2005-3508 (U2005-3508)
(22) 出願日 平成17年4月7日(2005.4.7)

(73) 実用新案権者 505021496
鈴木 弘幸
東京都多摩市諏訪5丁目2番地 2号棟2
03号
(72) 考案者 鈴木 弘幸
東京都多摩市諏訪5丁目2番地2号棟20
3号

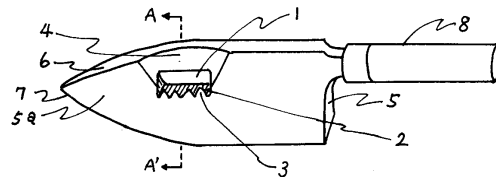
(54) 【考案の名称】 鱗の取れる包丁

(57) 【要約】

【課題】従来の包丁は、鱗を削り取る時点で、四方に飛び散ってしまう不都合の解消等。

【解決手段】本考案は、刀身5に孔1を設け、斜辺2の先端を鋸歯状の歯3にしたことでこの課題を解消する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

包丁の刀身に、孔と、くぼみを設け、孔の一边を斜辺として、その先端に鋸刃状の歯を設けたことを特徴とする鱗の取れる包丁。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、包丁の刀身に工夫を加えることに依って、容易に魚の鱗の取れる包丁に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来は、包丁の刃、又は包丁の背部に凹凸を設けた包丁で削っていた。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

しかし、従来のように包丁の刃で削ると、包丁の刃、又は刀身に鱗があたり、薄い鱗は刃、又は刀身に押し返えされて四方に飛び散る。

【0004】

また、専用の道具を使用した場合、包丁の持ちかえ、使用後の洗浄等の不都合を解決しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本考案は、図 1 に示すように包丁の刀身 5 に孔 1 を設ける、刀身面 5 a 側において、刃 7 に近い孔 1 の一边を斜辺 2 とする、その先端に鋸刃状の歯 3 を設ける、更に刀身面 5 a 側において、孔 1 より背 6 に向け、くぼみ 4 を設けたことで、魚の表面に包丁が密着できるようになり、鋸刃状の歯 3 で鱗を削り取ることで問題を解決している。

【考案の効果】

【0006】

よって、本考案の鱗の取れる包丁は、図 1 に示したように、刀身 5 に孔 1 を設け、鋸刃状の歯 3 で削り取られた鱗は、斜辺 2 に添って刀身面 5 b 側に向い、孔 1 を通過することで刀身 5 に押されず、飛び散ることもなく鱗を取り除くことができる。

【0007】

また、専用の道具を使う必要もなく、使用後の洗浄等の手間を省くことができ便利である。

【考案を実施するための最良の形態】

【0008】

本考案は、くぼみ 4 を魚の表面に密着させ、尾側より頭方向に、鱗を削り揚げるように動作することに依り、鋸刃状の歯 3 にあたり容易に鱗を取り除くことができる。

【0009】

図 1 に示すように、孔 1 を刀身 5 の中央より先端に近づけて設けることで使い易くすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

図 1 本考案の鱗の取れる包丁の斜視図である。

図 2 本考案の背面図である。

図 3 図 1 に示す A - A の断面図である。

【符号の説明】

【0011】

1 孔

2 斜辺

10

20

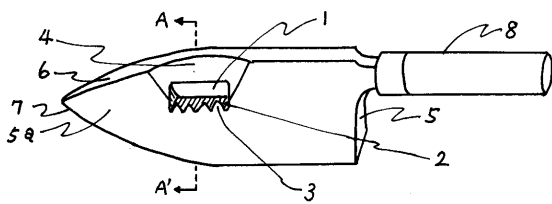
30

40

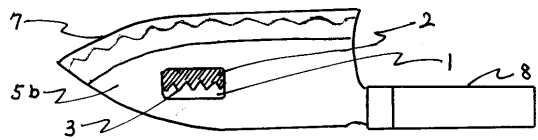
50

- 3 鋸刃状の歯
- 4 くぼみ
- 5 刀身
- 5 a 図 1 で見る刀身面
- 5 b 図 2 で見る刀身面
- 6 背
- 7 刃
- 8 柄

【図 1】



【図 2】



【図 3】

